

第199回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 〔予想配点：正誤・理由ともに正解で各④点、合計 40 点〕

	正誤	理 由
1.	×	未払費用及び未収収益は、当期の損益計算に計上し、前払費用及び前受収益は、当期の損益計算から除去しなければならない。
2.	×	当期の事象に起因するものではなく、当期以前の事象に起因し、他の要件を満たした場合、当期の負担に属する金額を引当金に繰り入れる。
3.	×	現金同等物とは、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期投資をいう。
4.	×	資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、減損損失を認識する。
5.	○	
6.	○	
7.	○	
8.	×	有形固定資産等の減価償却方法の変更は会計方針に該当するが、会計上の会計上の見積りの変更に従って処理するため、遡及適用しない。
9.	○	
10.	○	

問題 2〔予想配点：丸数字は配点を示す、合計 40 点〕

問 1

(a)	サ ー ビ ス	③
(b)	払 込 資 本	③
(c)	自 己 株 式	③

(d)	払 込 金 額	③
(e)	自己株式処分差額	③
(f)	利 益	③

問 2

従業員等に付与されたストック・オプションを対価として、これと引換えに、企業に追 加的にサービスが提供され、企業に帰属することとなったサービスを消費したことに費 用認識の根拠がある。	⑧
--	---

問 3

新株予約権は、本来は返済義務のある負債ではなく、負債の部に表示することは適当で はないため、純資産の部に記載される。	⑥
---	---

問 4

権利行使の有無が確定するまで、権利行使され払込資本になるか、失効して払込資本にな らないかが確定しないため、権利確定日以前から払込資本とすることには問題がある。	③
---	---

問題 3〔予想配点：丸数字は配点を示す、合計 20 点〕

問 1

ROA は分母を総資産とすることで、企業にとっての収益性を測定し、ROE は分母を 株主資本とすることで、株主にとっての収益性を測定する指標である。	⑥
---	---

問 2

返済義務のない純資産（特に株主資本）は、負債に対する担保となるものであり、これ に対する返済義務のある負債の割合が大きいということは、将来の返済時に資産の流出 を増大させるため、長期的観点からは、純資産負債比率は低い方が安全である。	⑥
--	---

問 3

(1)	流動資産には、即時支払手段とはなり得ない前払費用や棚卸資産などが存在する ため、200%以上が求められる。	⑥
(2)	(当 座 ②) 比率	